

## 太宰府天満宮

太宰府天満宮は日本で最も重要な神社のひとつである。学問、文化、芸術の祭神である天神様を祀る、全国 1 万社以上の神社の総本社である。太宰府天満宮を訪れる人の多くは、重要な試験の前に天神様に祈りを捧げに来る学生達とその家族である。

天神様は、傑出した学者であり、詩人であり政治家でもあった菅原道真公（845-903）の神霊である。京の都の学者の家に生まれた道真公は、学問に秀で、高名な政治家及び学者となった。外国の使節や天皇でさえもその詩作で魅了したことや、彼の統治下で貧窮した農民達の生活を向上させたことといったことで名高く、道真公は崇敬を集める人物となった。しかし、彼を妬むライバル達の陰謀により、道真公は朝廷から大宰府に左遷されてしまった。大宰府での道真公は社会から排除され、ひどい生活環境を経験し、わずか 2 年後に亡くなった。

天満宮の起源についての逸話は道真公の没後を語っており、従者の一人が道真公の遺体を埋葬のため牛車で運んでいたという。その牛車を引いていた牛は、突然止まって先に進もうとしなくなった。これは道真公の意志を示したものだと考えた従者は、道真公をその場所に葬ることにした。数年後、時の天皇は道真公の墓所に 919 年に建てられたものを含めて、道真公の霊を祀る祠の建立を命じた。これがやがて太宰府天満宮となった。

天満宮境内には多くの建築的または文化的に価値のあるものが残されている。天満宮の社殿や菅公歴史館に収められている品々には、道真公自身が制作したものや所有していたものが多数あり、その中には道真公の書も含まれている。天満宮の御本殿は、その豊かな色彩、精巧な彫り、ゆるやかに傾斜した屋根で知られている。現在の建物は 400 年以上の歴史を持ち、重要文化財に指定されている。

天満宮にある他の有名な箇所や事物としては、境内のあちこちにある 11 体の御神牛の像や、参拝者が神域に入るために渡る静かな「心」の字をかたどった心字池や、毎年 1 月の終わりから 3 月初旬にかけて赤や白の花を開く約 6,000 本になる 200 種以上の梅の木々などがある。梅は道真公が愛した木で、その花は度々彼の詩の題材になった。伝承によると、京都の道真公の家の庭にあった梅の木が、彼がいなくなったことに耐えかね、根を放って道真公の後を追って太宰府に「飛梅」としてやってきたという。御本殿に向かってすぐ右側にあるのがこの飛梅の木である。

現在、太宰府天満宮には年間 1000 万人以上の参拝客が訪れ、年間 100 以上の神事が行われている。毎年行われる最大の神事は神幸行事（神幸式）で、天神様の御霊が御本殿から天神様の旧居跡まで神輿に運ばれ、そこで一夜を過ごす式典である。太宰府天満宮の神事は、参加者が平安時代（794 年～12 世紀後半）の衣装を身にまとうことや、詩の朗読や書の展示や合

格祈願など学問や芸術に重きを置いていることで知られている。